

2021年度 愛知校教育課程編成委員会「車体」会議報告書

1. 開催日時 2021年7月15日(木) 13:30-15:30

2. 開催場所 日産愛知自動車中学校 多目的ルーム

3. 出席者

(学校外委員) 団体代表 正治 博史 様 愛知県自動車車体整備協同組合 専務理事
 企業代表 大森 一也 様 日産自動車株式会社 グローバルアフターセールスエンジニアリング部
 企業代表 小出 学 様 日産東海テクノ株式会社 工場長

(学校内委員) 学校長 松川 健一
 部長代理 鈴木 貴久 教育部
 統括 上谷 晃 教育部カーボディーマスタ科

4. 議題

- 挨拶、委員会趣旨説明
1. 国家試験結果報告
 2. 退学・休学率低減について
 3. 年間教育計画
 4. 自主性・主体性の育成
 5. 技術力向上へ取り組み
 6. スクラッチシールドの授業について
 7. 実習授業での改善・習熟対策
 8. 電子制御装置整備主任者講習
 9. ITC教育の推進

5. 議論

- 1) 結論 今回の教育課程編成委員会について、全委員からご意見を伺うことができた。同時に、貴重な意見・指摘を頂いたため、今後の授業カリキュラムに落とし込み対応していく。
- 2) 意見交換と質疑応答

議題番号	項目	所属	質問者	主な意見
2	国家試験結果報告	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・国家車体整備士:過去5年間の状況は、2019年度は1名の不合格者を出したが、それ以外は100%合格を達成している。 ・1級自動車整備士:2016年度は問題の難易度が高く40%程度の合格率であったが、2019年度は100%の合格、2020年度は96%と上昇傾向にある。 ・2級自動車整備士:2019年度は93%(4名のガソリン・ジーゼルエンジン両科目不合格者)であったが、2020年度では、ガソリン科目を2名不合格で出たものの、ジーゼル科目は100%合格となり、卒業生全員が国家2級を取得することが出来た。
3	退学者・休学率低減について	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度までは9%程度を推移していたが、2019年度は4.3%、2020年度は4.2%と大幅に改善している。改善要因として、学習意欲・モチベーションが高い留学生が増えたことが退学者数の減少に繋がったと推測される。一方、費用面で厳しい学生もいるため、学費の分割納入などで負担軽減を図っている。
		車体協同組合	正治様	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の車離れや自動車に興味のない方が増え、人が少なくなっていることから多くの留学生が入学しているのか？
4	自主性・主体性取り組み	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の方への募集活動は、最大の重点課題であり、年々強化とするものの厳しい状況が続いている。決して留学生を積極的に入れている訳ではなく、在籍している留学生のコミュニティから口コミで問い合わせが増えていると思われる。
		日産自動車	大森様	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作および発表の中で、コミュニケーション力を伸ばし、自主的に考え行動をすることで、就職先で自ら行動を起こせるという自信と技能習熟を身に付けている。 ・溶接作業等の訓練は、単調になりがちであり習熟には時間を要する。経験が少ない中でも基本技術を習得できるように心がけている。また、同じ設備でも個人差が当然出るので、色々な接合形状を体験させながら技能向上のきっかけづくりが必要。
5	技術力向上の取り組み	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・日産技術能力要件を活用し、学生の自己評価と、教員の評価を行い、学生自身の実力チェックを行うようにした。また学生の声を聴き、学生の不安な部分を克服する対策と合わせ、現状の技能チェックを行っている
		東海テクノ	小出様	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価させることは非常に良い。他人の目と自分の目の差について知る事は、どこができていないか、いらないの実力の見直しになる
		日産自動車	大森様	<ul style="list-style-type: none"> ・ダメな所を指摘するだけではなく、問題なく出来てくる所をほめてあげながらモチベーションを維持、向上させる事が必要。
6	スクラッチシールド	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチシールド(自己回復塗料)は材料が高価な為、学生1名ずつ塗装する事が難しい。塗装済み材料を、テクノ鳴尾工場様にご提供頂き、現物にてどんな事が起こるのか体感・理解した。
		東海テクノ	小出様	<ul style="list-style-type: none"> ・今の所、電子的な新技術は、整備店舗に任しているため、電子整備技術について、すぐに必要な状況にはない。 ・塗装技術等は、授業等で行っているとの事なので、あとは就職後に経験を多く積ませることで、技術面を伸ばしている。特に教育的内容を増やす等の要望は、現在の所ない。
		日産自動車	大森様	<ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチシールド施工車両については、販売されてから数10年経過しており、当然認知度はある。 ・日産BPの教育でも講座を実施しているが、材料の改良が進み塗装はやり易くなっている。 ・各販社BP工場にも、問題なく技術の浸透が出来ている。
7	実習授業での改善・習熟対策	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・実際の車両搭載状態を再現し、実習に落とし込みを行っている。 ・塗装実習に際しては、日産自動車技術研修所で行っている授業を学校用へ再編し、授業に導入したことで、教育効果を高める事ができた。 ・実習場の作業環境改善を図るため、健康管理の対策として安全管理設備の購入や既存設備の改良またハンドツールの改善を行い、学生が安全な環境で学習できるように取り組んでいる。
		日産自動車	大森様	<ul style="list-style-type: none"> ・当然、未経験の人への教え方は大変難しい。意識的に不具合を作り、後工程での問題点を理解できる様にして研修受講者が現物で悪さを確認できるようにしている。又、教材の改善も都度検討しているが、板金の道具はスペースを取る為、5S対策を意識していく事が必要。
		車体協同組合	正治様	<ul style="list-style-type: none"> ・右利き・左利きで作業のやり易さ・難しさがあるようだが、修理工具に、右利き・左利きは存在するのか？
		学内		<ul style="list-style-type: none"> ・作業者の利き手によって、作業の難しさが変化するが、特別な対応は行っていない、また工具については利き手を理由にした購入は行っていない。
8	電子制御装置整備主任者講習	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・最近の車両は、自動ブレーキやプロパイロットなど車両制御を行う機構が増えており、それに対応する整備士の育成として、電子制御装置主任者講習を実施しており、CM科・MM科卒業生が就職後より活躍できるよう、前年度より資格取得を取り入れた。
		車体協同組合	正治様	<ul style="list-style-type: none"> ・一級整備士は電子制御装置整備の整備主任者になれる。二級整備士はこの講習を受講することで、整備主任者になる事ができる。この意味合いは整備主任者としての責任を持つ事であり即戦力になる。 ・よって統括管理や整備記録簿記載など、整備主任者がどういった意味を持つのかをしっかりと理解させる教育が必要 ・車体運転補助装置がついたガラス交換や、パンパー取り外しなどの整備を行う場合にはこの特定整備主任者資格が必要になる。 ・今後、車体整備士及び電気整備士等の見直しを検討されていると聞いていますので、将来的には電気・電子装置についても、教育として重要になってくる。
		東海テクノ	小出様	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、板金・塗装工場での、エーミング作業は行わず、整備工場へ任せている。しかし、今後を見据えて、電子制御装置整備の教育としては行った方が良い。
9	ITC教育の推進	学内		<ul style="list-style-type: none"> ・日産校として、ITCを推進し授業に織り込んでいく。 ・次年度の新入生からパソコンを配布し、授業コンテンツの受信や、授業の課題のペーパーレス化などを行う。 ・コロナ禍において、昨年5月は学習資料を自宅へ郵送し、学内アプリなどを駆使し質疑・応答を行ったが大変苦勞した。今年度は、オンデマンドを利用した教材準備やLIVE授業を提供しながら、コンテンツを充実させていく。 ・これは、日産校としてコロナウイルス収束後も、学生が時間や場所を問わず活用が可能であり、制作した教材が学園の財産として蓄積していく。 ・課題としては、学内のWi-Fi環境整備や、教員のICTスキルアップが重要となってくる。現在、Wi-Fi工事や教員のICT研修を計画している。
		東海テクノ	小出様	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では、小学生もタブレットを配布され紙媒体を使わないペーパーレス化が進んでおり、今後ITCの活用が必要になって来るのでコンテンツを作る担当者もスキルが要求されてくる。ICT教育はすすめるべきと思う。
		日産自動車	大森様	<ul style="list-style-type: none"> ・日産研修センターでも、オンデマンド教材を少しずつ制作しはじめた。車両分解のポイントや作業のポイントなども伝える事ができ、遠方の作業への対応ができるようになり少しずつではあるが浸透させていきたい。 ・講座受講後の集計なども、紙媒体をやめオンラインを使い始めた。最初は大変だが、使い慣れるとお互い楽になる。 ・オンデマンド教材を活用することで、教員の教え方による習熟のばらつきも解消されると思う。 ・課題としては、オンデマンド教材を作るだけではなく、古くなった内容などの定期更新を行い管理をしていくことが重要である。